

## 令和7年度 基本施策評価シート

基本施策	A3	国際性を豊かにします	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	市民が	文化の違いを理解し、世界の人と活発に交流している。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			59ページ
基本施策主管課名	国際課	関係課名	学校教育課

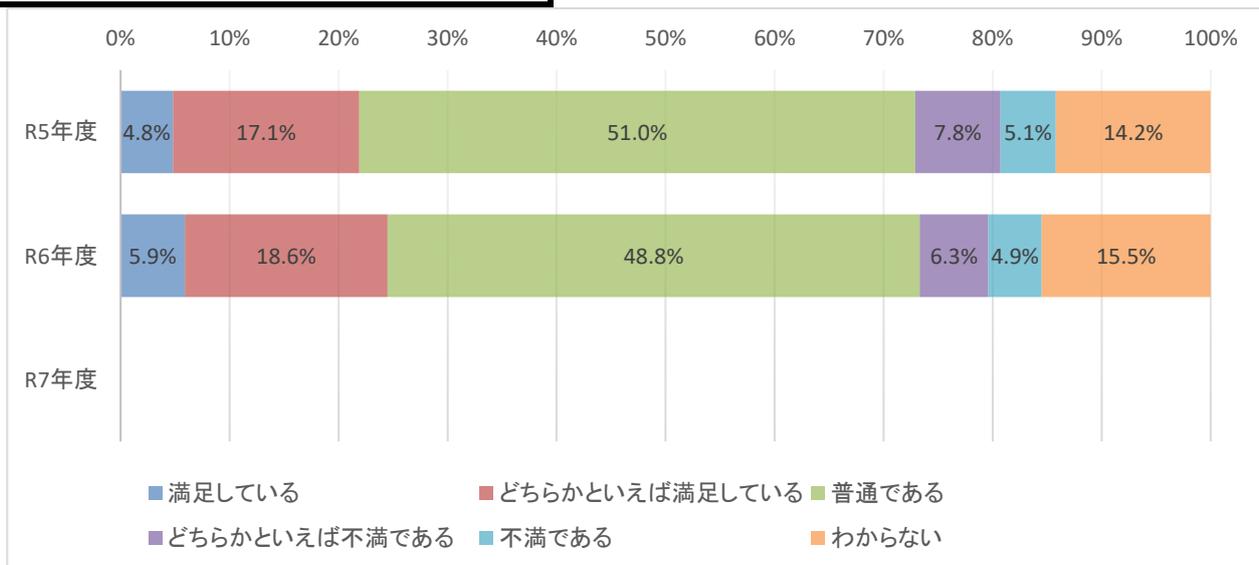
### 基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本施策の成果指標である「国際交流イベント・国際理解に係る講座への参加者数」は、3,731人(令和6年度実績)で前年度比約14.8%増となっているものの、2025年度(令和7年度)の目指す姿である4,060人を下回っている一方、基準値(令和元年度)を上回る実績数であり、令和3年度以降順調に推移している。</li> <li>●国際交流イベントや国際理解に係る講座への参加者数は増加傾向にあり、市民が文化の違いなどを理解する機会を提供できており、市民が世界の人と活発に交流する環境づくりも進んできていることから、今後も継続して現在の取組みを進めていく。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
A3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係団体等と更に連携を深め、活動支援を行うこと等により、多様な市民の国際交流の機会創出につなげていく。長崎市国際ボランティアと関係団体が協力した国際交流イベントを開催するなど内容を充実する。また、国際交流イベントの開催にあたっては、様々な媒体を活用し、発信強化する。</li> <li>●次世代を担う子どもたちが異文化や言語に対する関心・理解を深めるための機会は重要と考えており、小・中学生を対象とした国際交流・国際理解に係る講座に引続き積極的に取り組んでいく。</li> <li>●姉妹都市等について、周年事業や関係団体のイベントなど様々な機会をとらえ、市民に分かりやすい周知を行っていく。また、姉妹都市委員会など都市間交流の中核を担う団体等と連携し、多くの市民が世界とつながり、幅広い交流ができるよう支援する。</li> <li>●子どもゆめ体験事業において、「中学生平和Englishリーダー育成事業」との連携を継続しつつ、現地研修以外においても派遣都市との交流を取り入れるなど内容を充実させ、国際感覚豊かな人材育成を行う。</li> <li>●児童生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を探るとともに、例年実施している小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会を充実させる。特に小中9年間の英語教育研修会においては、近隣の小中学校と一緒に協議しながら参加できるように座席を工夫し、小中連携の機会とする。さらに、教科部会と連携し、研究授業を実施することで教員の指導力向上に努める。</li> <li>●国際理解教育では、これまでのイベントに加えて、英語で被爆の実相や平和への思いを発信できる生徒の育成を目指し、「子どもゆめ体験事業」と合わせた「中学生平和Englishリーダー育成事業」に取り組む。さらに、全市立中学校に英会話アプリ「Terra Talk」を導入し、会話練習量や言語活動の充実につなげる。</li> </ul>
A3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時の外国人住民支援として、避難所に従事する職員へ「やさしい日本語」及び「行政窓口等に対する通訳支援」などを周知・啓発する。</li> <li>●外国人住民が必要な情報へアクセスできる取組みを進めることとし、4ヶ国語による情報提供を継続するとともに、日本語ボランティアの研修会やセミナーを通じて、多くの人が「やさしい日本語」に触れる機会を増やし普及に努める。また、出入国在留管理庁が実施している「行政窓口等に対する通訳支援」について引続き周知するなど、外国人住民が相談しやすい環境づくりを進める。</li> <li>●身近に外国人が生活し、活躍していることを広く市民に知ってもらうことが外国人住民の暮らしやすさにもつながるため、県・市・関係団体が連携し、広報番組や広報誌など様々な媒体を活用し情報発信する。また、初級日本語講座において、外国人受講者が多くの日本語ボランティアと対話できる工夫や、ボランティアの活用を含めた実施手法を検討する。</li> </ul>
A3-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●留学生の県内事業所への就職率増に向けて、長崎留学生支援センターを中心として産学官が連携し、留学生向けビジネス日本語講座の開催や、留学生に対して長崎に就職する選択肢としての企業を紹介するインターンシップ・プログラムなどの取組みを推進する。</li> <li>●長崎留学生支援センターや国際ボランティアと協働し、外国人留学生と市民が互いの文化に触れ、地域とのつながりや一体感を感じられる取組みを進める。</li> <li>●各大学や国際交流に取組む関係団体との連携など機会を活かし、留学生が多様な取組みに参画できるよう、積極的に呼びかけを行う。</li> </ul>

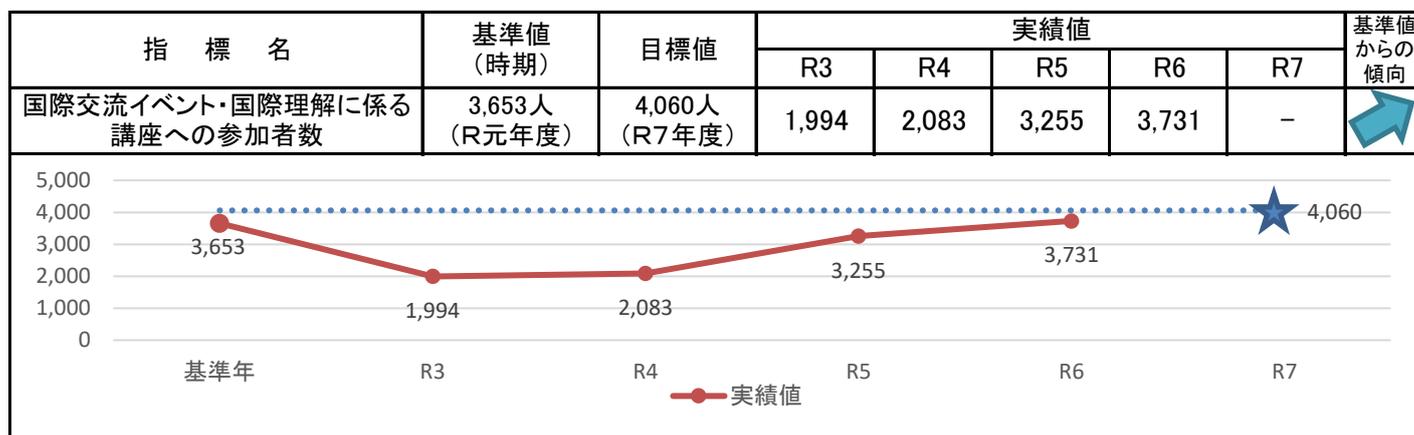
## 二次評価(施策評価会議による評価)

- 【A3】  
どの施策を検討するにあっても外国人住民が暮らしやすくなるよう多文化共生を意識することが必要であるため、市全体で多文化共生に取り組んでいくための指針があるといいのではないか。
- 【A3-1】  
市と関係団体との役割分担を明確にしながら、市が担うべき役割の中で必要な取組みを検討すること。
- 【A3-1】  
子どもゆめ体験事業は対象者数が限定的で事業費も大きいことから、効果的な施策の推進に向けて、取組みの見直しを検討すること。
- 【A3-1】  
幼児期からの英語教育について、こども部や教育委員会と連携しながら取組みを検討すること。
- 【A3-2】  
「やさしい日本語」を市民等にも普及していくためのより効果的な取組みを検討すること。

## 基本施策に対する市民満足度調査結果



## 成果指標



## 年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流を実施した小・中学校数の増(23校の増)</li> <li>・日本語ボランティアによる外国人住民のための初級日本語講座の受講者数の増(791人の増)</li> <li>・外国人留学生数の増(461人の増)</li> <li>・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(2,132人の増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流を実施した小・中学校数の増(36校の増)</li> <li>・国際ボランティアの登録者数の増(109人の増)</li> <li>・外国人留学生数の増(177人の増)</li> <li>・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(1,104人の増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解に係る講座への参加者数(476人増)</li> <li>・国際交流を実施した小・中学校数の増(36校の増)</li> <li>・外国人留学生数の増(57人の増)</li> <li>・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(183人の増)</li> </ul>	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	A3-1	国際交流・国際理解の機会の充実を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		国際交流を体験し、国際的な理解を高めている。
個別施策主管課名	国際課		

まち・ひと・しごと創生総合戦略施策

目標／具体的施策	
基2・(3)	子どもをみんなで育てる 子育てしやすいまちをつくる／学校における教育環境を充実する

成果

① 国際交流の機会と内容の充実

★国際理解に係る講座を141回開催、3,731人(令和5年度実績3,255人)が参加し、多くの市民が異なる文化や言語に触れ、関心・理解を深める機会を提供した。特に、小中学生を対象とした外国文化体験出前講座は興味・関心が高く、81回開催、参加者数は2,187人(令和5年度実績1,438人)と大幅に増加している。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

●国際交流イベント「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」の開催にあたっては、SNSによる周知や児童クラブへの案内に加え、ラジオ出演やふれあい掲示板へのポスター掲出など、多くの市民の参加に向け新たな取り組みも行うことで国際交流の機会を充実させた。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●市民友好都市ドイツ・ヴュルツブルク市を訪問し、市長表敬訪問、ドイツ・シーボルト博物館と長崎・シーボルト記念館の友好博物館提携30周年などに関する協議、シーボルト博物館での原爆パネル展へ参加したほか、本市の平和の取り組みについて講演し、長崎に留学経験があるヴュルツブルク大学生等と意見交換を行ったことで、長崎の平和への思いを共有することができた。

●日系社会研修員受入事業で、ブラジル長崎県人会から2人を1ヶ月間受入れ、龍踊りや長崎の歴史文化に対する理解を深めるとともに、長崎女子高龍踊部の練習へ参加すること等により市民交流の機会を創出した。

●2025長崎ランタンフェスティバルに福州市文芸友好訪問団が福州市の伝統芸術「閩劇(びんげき)」で出演し、多くの市民が友好都市中国・福州市の文化に触れることができた。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

★子どもゆめ体験事業で、市内中学生16人を市民友好都市イギリス・アバディーン市へ派遣し、ホームステイ等の交流により国際性を有する人材を育成した。また、教育委員会と連携して平和の思いを英語で伝えることのできる人材を育成する「平和Englishリーダー研修」や、国際機関従事者や海外派遣経験者の話を直接聞き、世界に視野を広げる「Meet the Expert研修」を開催し、グローバル人材の育成に寄与することができた。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

●市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を探るとともに、例年実施している小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会を充実させた。小中9年間の英語教育研修会においては、近隣の小中学校が一緒に協議し小中連携の機会としたことをきっかけに、ALTを軸とした教材の共有が図られている。学力向上研修会では、研究授業の振り返りや指導主事によるモデル授業の提案を行い、実践的な研修を行うことができた。これらの取り組みにより、教職員の授業改善につながった。

★国際理解教育に関する子どもの実践では、これまでのイベントに加えて、新たに「子どもゆめ体験事業」と合わせた「中学生平和Englishリーダー育成事業」に取り組んだ。参加した16名の生徒は、被爆の実相や平和への思いを英語で発表し、英国への派遣前に平和への思いを言語化したり、共有したりすることができた。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

## 問題点とその要因

### ① 国際交流の機会と内容の充実

●行政や関係団体等が様々な国際交流の取組みを行っているが、団体間の協働や取組み内容の共有など、さらなる連携強化が求められており、市民に十分な国際交流の機会を提供できていない。

### ② 姉妹都市等の情報発信と市民交流の支援等

●姉妹都市等との交流を多くの市民が知ることで、市民の友好都市等への理解が深まると考えられるが、市民への周知、市民の認知が十分とは言えない。

### ③ 国際的に活躍できる人材の育成

★国際的に活躍できる人材の育成を目的とした、子どもゆめ体験事業においては、研修内容の充実や関係部局との連携に工夫する余地がある。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

★「読むこと」「書くこと」を中心に進めた結果、改善は見られたものの、会話の量が十分に確保されていないことから、「話すこと」「聞くこと」については十分に進めることはできていない。

また、中学生の英語力については、英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒が増えているが英語を使う機会の少なさや自宅での学習時間の不足から、令和6年度は52.9%で、県が設定している目標(英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒の割合60%)には届いていない。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

## 今後の取組方針

### ① 国際交流の機会と内容の充実

改善 ●関係団体等と更に連携を深め・活動支援を行うこと等により、多様な市民の国際交流の機会創出につなげていく。長崎市国際ボランティアと関係団体が協力した国際交流イベントを開催するなど内容を充実する。また、国際交流イベントの開催にあたっては、様々な媒体を活用し、発信強化する。

継続 ★次世代を担う子どもたちが異文化や言語に対する関心・理解を深めるための機会は重要と考えており、小・中学生を対象とした国際交流・国際理解に係る講座に引き続き積極的に取り組んでいく。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

### ② 姉妹都市等の情報発信と市民交流の支援等

継続 ●姉妹都市等について、周年事業や関係団体のイベントなど様々な機会をとらえ、市民に分かりやすい周知を行っていく。また、姉妹都市委員会など都市間交流の中核を担う団体等と連携し、多くの市民が世界とつながり、幅広い交流ができるよう支援する。

### ③ 国際的に活躍できる人材の育成

継続 ★子どもゆめ体験事業において、「中学生平和Englishリーダー育成事業」との連携を継続しつつ、現地研修以外においても派遣都市との交流を取り入れるなど内容を充実させ、国際感覚豊かな人材育成を行う。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

新規 ★全市立中学校に英会話アプリ「Terra Talk」を導入し、会話練習量や言語活動の充実につなげる。

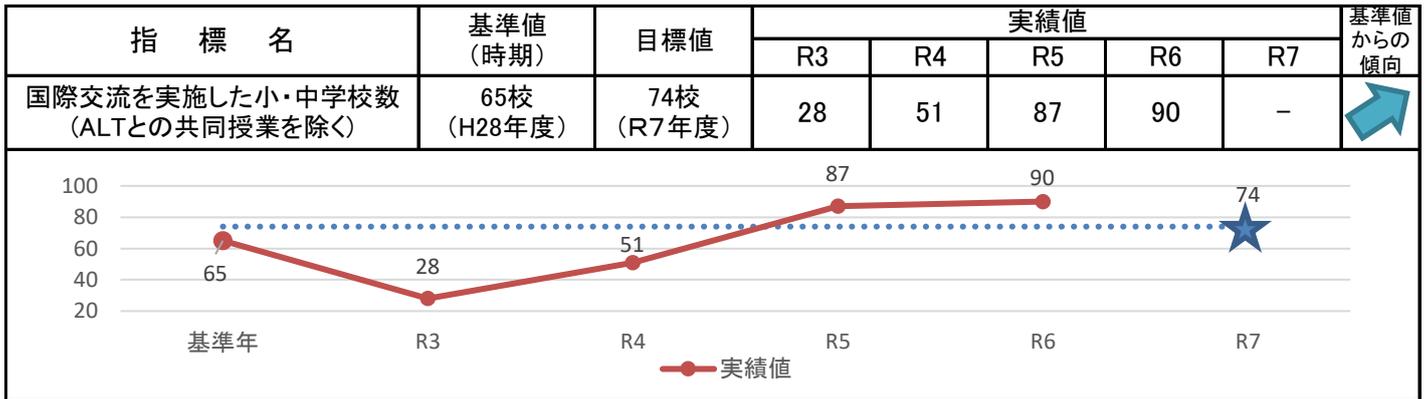
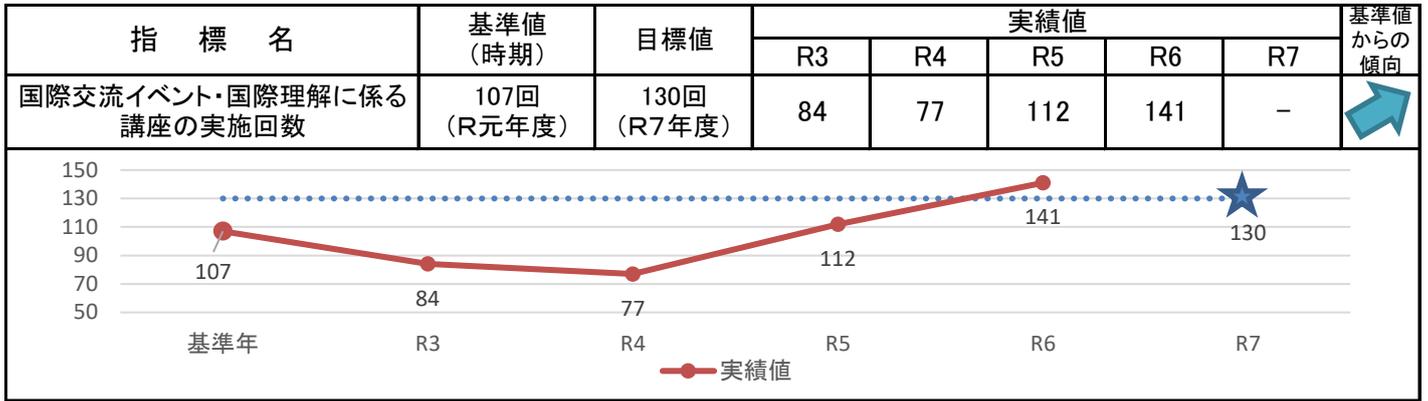
関連する総合戦略施策 基2・(3)

継続 ●児童生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を探るとともに、例年実施している小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会を充実させる。特に小中9年間の英語教育研修会においては、近隣の小中学校と一緒に協議しながら参加できるように座席を工夫し、小中連携の機会とする。

継続 ★国際理解教育では、これまでのイベントに加えて、英語で被爆の実相や平和への思いを発信できる生徒の育成を目指し、「子どもゆめ体験事業」と合わせた「中学生平和Englishリーダー育成事業」に取り組む。

関連する総合戦略施策 基2・(3)

## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	国際交流員招致費	国際課
	成果指標	国際交流イベント・国際理解に係る講座の実施回数(回)	 <p>【国際理解講座】</p>
	目標値	120回	
	実績値	141回	
	達成率	117.5%	
	成果指標・ 目標値の説明	国際交流イベントや国際理解講座(小中学生向け外国文化体験出前講座含む。)を開催することで、市民の国際理解・国際交流のきっかけづくりができると考えられるため。	
	事業目的	国際交流員を任用し、通訳・翻訳や国際交流に関する業務を行い、本市の国際化を推進する。	
	事業概要	英語・韓国語・中国語の国際交流員を任用し、通訳・翻訳、国際交流に係る業務を通して国際化を推進するとともに、外国人住民の支援や市民の国際意識の向上を図る。	
	取組実績	翻訳、通訳 外国人住民のサポート 国際理解講座等の啓発活動 国際交流、観光等のイベント対応	
		決算(見込)額	13,612,559

	事業名 担当課	国際理解教育推進費	学校教育課
	成果指標	県下一斉実施の英語科基礎学力調査の本市平均点と県平均点との差(点)	 <p>【あじさいEnglish Speech Contest】</p>
	目標値	1.6点	
	実績値	2.0点	
	達成率	125.0%	
	成果指標・ 目標値の説明	客観的に英語の学力をはかることができることから、県学力調査(中学校英語)の平均点と県平均点との差を成果指標とした。 令和2年度から、前年度の目標値+0.2点を目標値とすることとした。令和2年度は1.0、令和6年度は1.8である。	
2	事業目的	国際化が進むこれからの時代にふさわしく、自ら進んで交わろうとする国際感覚豊かな子どもの育成を図るために、ALTと外部指導者を全市立小中学校に派遣し、児童生徒が生徒の英語に直接接し、英語に対する興味を高めるとともに、国際感覚を養い、国際理解教育の推進を図る。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT(36人)及びALT指導専門員(2人)や外部指導者が、小学校のハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業で担任と協同での授業を行い、小中連携した9年間の国際理解教育を推進する。</li> <li>・国際感覚の醸成のために、グラバー園等の市の施設を利用し、外国人と児童生徒が触れ合う交流イベントを開催する。</li> <li>・中学生英語スピーチコンテストを実施し、ふるさと長崎について発信する機会を通して、英語で自分の考えを伝える態度や表現力を育成する。</li> </ul>	
	取組実績	<p>小・中学校教諭やALTを対象とした研修会を実施し、指導力の向上を図ることができた。また、英語研究部会と協力し、学力向上研修会の際に、研究推進員が作成した指導案やワークシートを提供したり、授業参観を行い授業改善を進める機会とした。さらに、文科省教科調査官を招聘した研修会を実施し、全国学力学習状況調査やデジタル教科書を活用した実践的な指導の在り方を学ぶ機会とした。</p>	
		決算(見込)額	199,971,550 円

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	A3-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます	
2025年度にめざす姿	対象	意 図	
	外国人住民が	暮らしやすい環境になっている。	
個別施策主管課名	国際課		

成果

① 多言語による情報提供の充実

●行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報を4ヶ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で掲載した「外国人住民のための生活ガイド」を外国人転入者に配布しているが、電子書籍を公開したほか、外国人へ配布する際に電子書籍へ誘導するQRコードを加えたことや、広報ながさきに掲載された生活に役立つ情報をSNSにより多言語で発信したことで情報へのアクセスの利便性が向上した。

外国人住民の生活利便性の向上に向け、国・県・市や関係機関が連携し様々な取組みを行っている中、出入国在留管理庁による20ヶ国語に対応した電話通訳サービス「行政窓口等に対する通訳支援」を周知し、利用可能な庁舎窓口を45所属(令和5年度:39所属)に増やしたほか、長崎県国際交流協会が設置する「長崎県外国人相談窓口」の活用に向けた周知を行うなど、外国人が情報を得やすく、多様な言語に対応できる環境づくりを行った。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

●多くの外国人が市内の身近な場所に暮らしていることを多くの市民に知ってもらうため、広報ながさきにおいて、長崎で働く外国人を特集した記事を掲載した。

外国人住民への初級日本語講座については、登録者数が増加している中、中間研修を兼ねた意見交換会を実施することで、国際ボランティアが講座へ積極的に参加でき、活動しやすい環境を整えた。また、主に市職員を対象としていた「やさしい日本語」研修会を市民向けにも開催し、市民が外国人住民と接する機会に有効なコミュニケーション手段であることの周知・啓発が図られた。

問題点とその要因

① 多言語による情報提供の充実

●行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報などは、現在、4ヶ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で提供しているが、外国人住民の国籍や文化の多様化が進んでおり、様々な言語での対応が必要となっているが、全ての言語への対応は難しい。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

●市内在住外国人数が増加している状況の中、身近に外国人が暮らし、活躍していることは広く知られていない。初級日本語講座の国際ボランティア登録者数は、増加傾向にあるものの、継続して参加するボランティアはあまり増えていない。また、「やさしい日本語」は、市民が外国人住民と接する機会に有効なコミュニケーション手段であるが、普及が十分できていない。

今後の取組方針

① 多言語による情報提供の充実

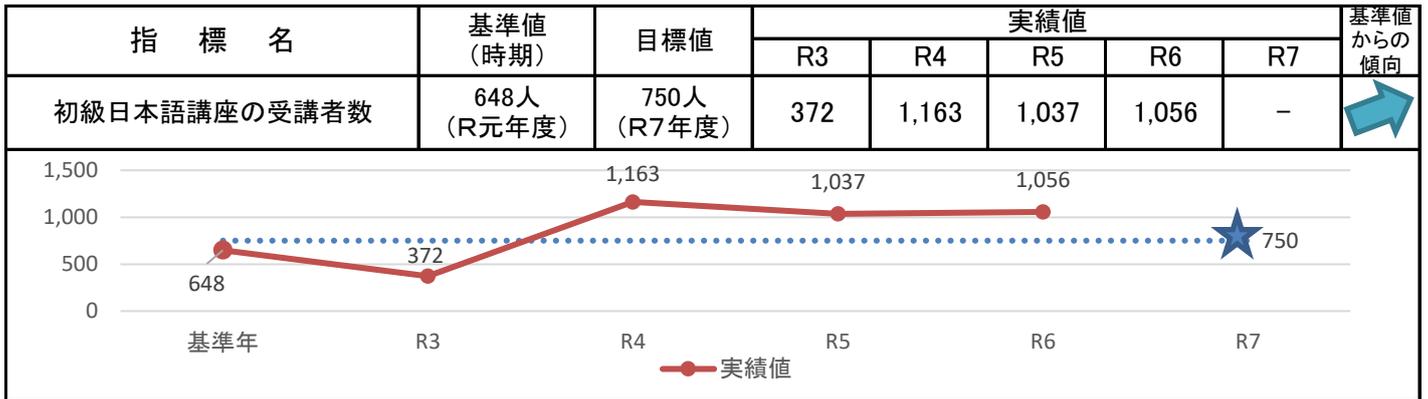
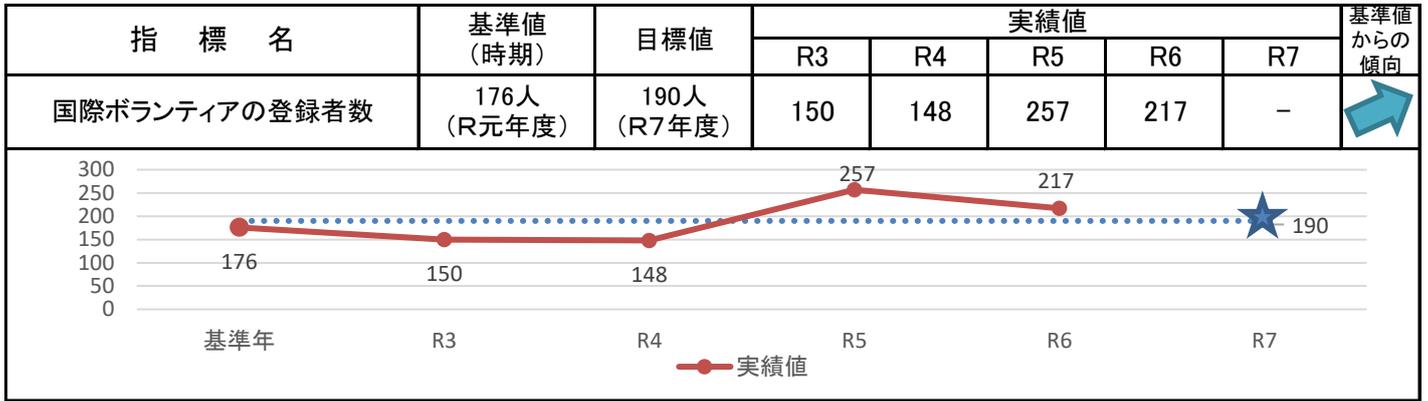
改善 ●災害時の外国人住民支援として、避難所に従事する職員へ「やさしい日本語」及び「行政窓口等に対する通訳支援」などを周知・啓発する。

継続 ●外国人住民が必要な情報へアクセスできる取組みを進めることとし、4ヶ国語による情報提供を継続するとともに、日本語ボランティアの研修会やセミナーを通じて、多くの人が「やさしい日本語」に触れる機会を増やし普及に努める。  
また、出入国在留管理庁が実施している「行政窓口等に対する通訳支援」について引続き周知するなど、外国人住民が相談しやすい環境づくりを進める。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

改善 ●身近に外国人が生活し、活躍していることを広く市民に知ってもらうことが外国人住民の暮らしやすさにもつながるため、県・市・関係団体が連携し、広報番組や広報誌など様々な媒体を活用し情報発信する。  
また、初級日本語講座において、外国人受講者が多くの日本語ボランティアと対話できる工夫や、ボランティアの活用を含めた実施手法を検討する。

## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

事業名 担当課	多文化共生推進費		国際課
成果指標	国際ボランティアの登録者数(人)		 <p>【初級日本語講座】</p>
目標値	184人		
実績値	217人		
達成率	117.9%		
成果指標・ 目標値の説明	共生のための支援や相互理解に主体的に取り組む市民が増えることで、ボランティア登録者が増えると考えられるため、成果指標とした。目標値は平成28年度から令和2年度の5年間の最高値184人を目標値とした。		
事業目的	外国人住民の生活利便性を向上させるため、行政情報の提供や日本語講座などを実施する。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政等の情報提供</li> <li>・外国人住民のための日本語講座、法務相談、通訳の実施</li> </ul>		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人住民の生活ガイドや国際課ホームページへの「やさしい日本語」の活用や多言語による情報発信</li> <li>・通訳ボランティアによる業務支援</li> <li>・日本語ボランティアによる初級日本語講座の実施</li> </ul>		
	決算(見込)額		1,575,220 円

## 令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	A3-3	留学先としての質の向上を図り、魅力を高めます	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	外国人留学生が	長崎留学の魅力を見出すとともに、充実した留学生活を送っている。	
個別施策主管課名	国際課		

### 成果

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●産学官で構成する長崎留学生支援センターを中心に、長崎での生活に必要な情報、長崎留学の魅力の発信等価値を高めたことで、長崎市域の留学生数は令和6年度12月現在で1,391人と前年同期比から57人増加している。

●長崎留学生支援センターが、留学生の県内事業所への就職増に向け取り組む「留学生就職促進プログラム」に参画し、関係団体と連携し留学生を対象とした企業見学会(8社)を開催し33人の学生が参加した。また、県内企業関係者と就職を希望する留学生を対象とし、外国人留学生を雇用した企業や留学生等の意見を共有する場として「外国人留学生雇用促進フォーラム」を開催した。

●「Bangladesh高度IT人材受入事業」において、長崎で暮らす先輩外国人という立場で国際交流員が講義し、外国人材に長崎が暮らしやすいと感じてもらう環境づくりに寄与した。

#### ② 外国人留学生との協働

●国際交流イベントにおいて、留学生グループが伝統的な民謡と踊りを披露する等、初めて参加する国出身の留学生が参加したほか、平和祈念式典においては、留学生が海外来賓の随行業務を担う等、留学生と市民が交流し、協働する機会を創出できた。

また、「Bangladesh高度IT人材受入事業」の留学生と国際ボランティアによる数ヶ国の食を通じた交流会において、留学生が企画に参画する等、活躍の場を設けることができた。

### 問題点とその要因

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●外国人留学生は増加しているが、企業側と就職を希望する留学生との間に、日本語でのコミュニケーションなどの問題や、留学生への地元企業のPRが十分でない等、地元企業への就職につなげる取組みに課題があり、長崎県内の大学を卒業した留学生の県内就職率は約11.3%に留まっている。

#### ② 外国人留学生との協働

●外国人留学生の増加や国籍の多様化に伴い、協働の機会の広がりや充実が期待できる一方、外国人留学生が自らの力を活かし市民とコミュニケーションをとる機会が十分とれていない。

### 今後の取組方針

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

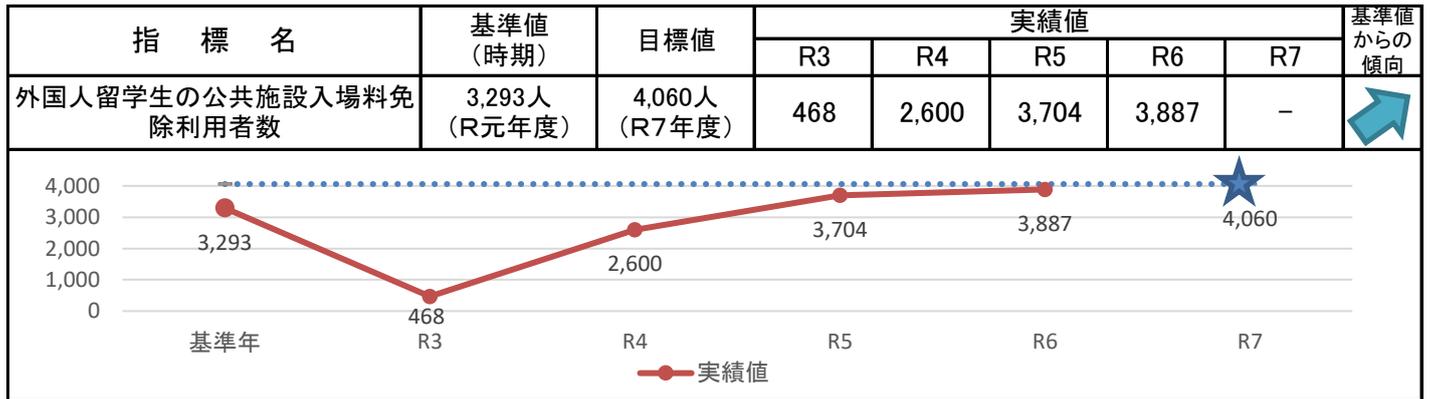
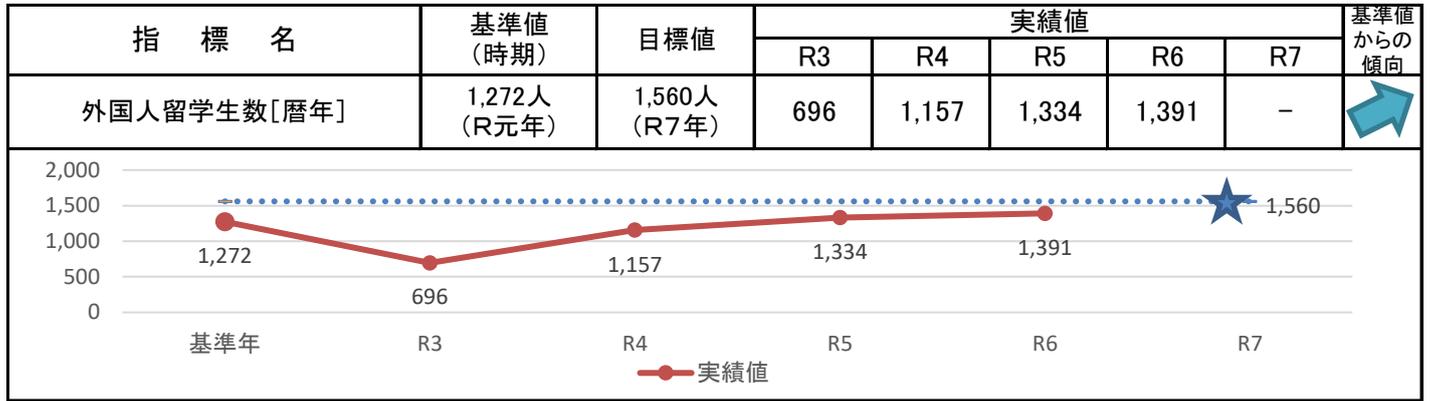
改善	●留学生の県内事業所への就職率増に向けて、長崎留学生支援センターを中心として産学官が連携し、留学生向けビジネス日本語講座の開催や、留学生に対して長崎に就職する選択肢としての企業を紹介するインターンシップ・プログラムなどの取組みを推進する。
----	---

継続	●長崎留学生支援センターや国際ボランティアと協働し、外国人留学生と市民が互いの文化に触れ、地域とのつながりや一体感を感じられる取組みを進める。
----	---

#### ② 外国人留学生との協働

改善	●各大学や国際交流に取り組む関係団体との連携など機会を活かし、留学生が多様な取組みに参画できるよう、積極的に呼びかけを行う。
----	--

## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	留学生支援・連携費	国際課
1	成果指標	外国人留学生数(人)	 <p>【長崎留学生支援センター(留学生と企業との交流会)】</p>
	目標値	1,444人	
	実績値	1,391人	
	達成率	96.3%	
	成果指標・ 目標値の説明	留学地としての魅力が高まるよう環境が整うことで、留学生数が増加すると考えられるため、住民登録における在留資格が留学の者の数を成果指標とした。	
	事業目的	産学官が一体となった「長崎留学生支援センター」を中心に、留学生の各種支援や留学生に長崎の歴史・文化を体験してもらう等、留学生の満足度を高め、留学生数を増加させる。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集、生活、就職等の各種支援</li> <li>・留学生に長崎について知ってもらうための取組み</li> <li>・海外への長崎留学の情報発信</li> </ul>	
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎留学生支援センターを中心とした産官学が一体となった支援</li> <li>・市有施設の入館料等免除</li> </ul>		
	決算(見込)額	1,335,800	円